

認定NPO法人テラ・ルネッサンス

2025年度年次報告書

2025.4 — 2026.3





理事長

吉田 真衣

ごあいさつ

2025年、日本が終戦80年の節目を迎えた一方で、世界では戦争や紛争、自然災害など、さまざまな危機が人びとの暮らしを脅かし続けました。

1月に発生したコンゴ民主共和国東部で武装勢力M23による侵攻により、テラ・ルネッサンスが支援してきた乳製品製造組合の施設や、南キブ州の州都ブカブ市にあった事務所も襲撃を受けました。この紛争は更に混迷しながら、今も続いています。7月にはタイ・カンボジアの国境紛争が激化。私たちが生計向上支援を続けてきたカンボジア・サムロート郡の村人たちは、更なる困難に直面しました。国境紛争は12月にも戦闘が起こり、2026年7月現在、またも緊張が高まっている状況です。ミャンマーでは、3月28日、マグニチュード7.7の大地震が脆弱な人びとを直撃しました。

そのような状況の中、テラ・ルネッサンスは、柔軟に活動が続けてきました。「平和を求める声に、今、応えたい」――。緊急支援・人道支援を行いながら、未来につながる自立支援を決して止めなかったことは、私たちにとって大きな意味を持つ一年でした。

一方で、ウガンダ・コンゴでの元子ども兵の帰還支援は、大きな成果をあげ、多くの子ども兵が武装勢力を離れ、故郷へ戻ることができました。また、その歩みを追ったドキュメンタリー映画『RETURNEES（リターネーズ）元子ども兵それぞれの再起』が公開され、多くの皆さまに活動を知っていただく機会にも恵まれたことは、私たちにとって大きな喜びです。

テラ・ルネッサンスは、これからも一人ひとりに寄り添いながら、その歩みを支え続けます。一人の人生を支えることが地域を変え、社会を変え、世界を変えていくと、私たちは信じています。

皆さまとともに、この歩みを止めることなく、次の一步を重ねてまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

吉田 真衣



創設者

鬼丸 昌也

2026年、テラ・ルネッサンスは25周年を迎えました

この四半世紀を振り返ると、たくさんの出会いと挑戦、そして数え切れないほどの支えが思い浮かびます。カンボジアでの地雷被害者支援から始まった小さな活動は、アジア、アフリカ、そして世界へと広がり、多くの方々とともに平和をつくる歩みを続けていくことができました。

その歩みを支えてくださった寄付者の皆さま、会員の皆さま、ボランティア、職員、インターン、現地スタッフ、そして私たちの活動を信じ、ともに歩んでくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

世界を見渡せば、今なお戦争や紛争は絶えず、新たな苦しみが生まれ続けています。その大きな世界の流れを前に、「自分に何ができるのだろう」と無力さを感じることもあるかもしれません。

一人の力は決して大きくありません。しかし、その小さな行動が誰かの未来を変え、その変化がまた次の誰かへとつながっていく。私は25年間、その連鎖を世界各地の現場で見続けてきました。私たちは、微力であっても、無力ではありません。そして、その微力が集まれば、世界を変える大きな力になります。

これからも、一人ひとりの可能性を信じ、困難の中にある人びとに寄り添いながら、平和をつくる挑戦を続けてまいります。

次の25年も、皆さまとともに歩み続けられることを願っています。今後とも、変わらぬご支援、ご参加を心よりお願い申し上げます。

鬼丸 昌也

願いをチカラに、 平和をつくる。

OUR CHALLENGE／取り組み課題



子ども兵

子どもの徴兵予防
元子ども兵の社会復帰
支援・帰還支援



地雷・不発弾

被害者への支援
不発弾回避教育など



紛争鉱物

紛争の被害を受ける
人々の自立支援、
国内外の啓発活動



貧困の連鎖

個人の努力だけでは断
ち切ることが極めて困
難な貧困の連鎖の解消



OUR VISION／ヴィジョン

すべての生命が安心して生活できる社会
＝世界平和の実現

OUR MISSION／使命

次世代への責任を果たす

当会の事業を通じ、人々に『次世代に対する責任』を啓発し、
それぞれが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、
未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活（簡素な生活）を
実践することにより、人類共通の理想『世界平和』を実現する。

OUR PRINCIPLES／活動理念

私たちは一人ひとりに
「未来をつくる力」があ
ると信じ、市民の可能性
を追求しています。

私たちは内なる変化がす
べての変化の始まりであ
り、変革の主体者は私自
身であることを理解して
います。そして、他人も
変革の主体者であること
を理解し、相手を尊敬し
ています。

私たちはあらゆることは
常に変化することを理解
し、あきらめずに活動し
続けています。

数字で見る2025年度の テラ・ルネッサンス



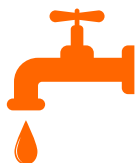
元子ども兵帰還支援

48人



経常収益

3億7,480万円



コンゴ 紛争下での
安全な水へのアクセス

7,200人



元子ども兵
職業訓練完了

77人



ラオス不発弾回避教育

2,235人



カンボジア家畜支援

180世帯



ウクライナ炊き出し

25,000食



2025年9月1日より「広報室」を新設。平和を自分ごととして捉え、行動するきっかけをお届けしています！

メディア ハイライト

テラ・ルネッサンスの活動に密着取材したドキュメンタリー映画が公開されました！『RETURNEES 元子ども兵それぞれの再起』



企画・制作は、あの中村哲医師の活動を追ったドキュメンタリー『荒野に希望の灯をともし』の制作会社である日本電波ニュース社。この映画は現在までに14都道府県の映画館で上映され、2026年7月より、自主上映の申込を開始しています。

©日本電波ニュース社 2026年／日本／102分／DCP／5.1ch
監督・撮影・編集：菊地啓 | プロデューサー：上田末生
製作：日本電波ニュース社

【自主上映会に関するお問い合わせ】 ジャパン・スローシネマ・ネットワーク（JSN）
TEL: 0 2 2-2 2 5-0 9 8 6 sendai@cinema-tohoku.co.jp

注目メディア掲載

NHK『国際報道2025』にて、 コンゴでの活動が特集されました

放送内容：コンゴ民主共和国 紛争の最前線からの報告

テレビ

- NHK『あさイチ』 | 中継「大槌刺し子」岩手・大槌町
- FNNプライムオンライン『Mr.サンデー』 | 東日本大震災から15年…世界をつないだ“おばあちゃん”たち「サンコギャルズ」の針と糸
- TBS | 【愛子さま初海外公務】ラオスってどんな国？知られざる不発弾のこと 熱心にメモをとり…
- KBS『比叡の光』 | 伝える力で平和を紡ぐ (1) (2)

新聞

- 朝日新聞 | 「絶望」を歌う少女の声、かき消す「ディール」コンゴ民主共和国紛争／「児童労働ゼロ」その日はいつ？ 達成には11倍のペース必要／「主語を小さく」一人ひとりに寄り添うウガンダ元子ども兵支援のNPO、活動を映画化
- 毎日新聞 | 戦後80年 終戦の日 平和をつくる行動を今こそ（社説）／世界で最も空爆された国ラオス
- 読売新聞 | 刺し子 新ビジネス探る 体験会で魅力発信
- 産経新聞 | 少年兵、奪われた自尊心
- 京都新聞 | 住居・衛生。医療喫緊の課題 京のNPO現地調査、CFも
- 秋田魁新報 | 地雷の悲惨さ伝えたい 人道支援NPO台湾メンバーら来県
- 佐賀新聞 | アフリカ東部のウガンダでNPO活動のトシャさん、佐賀市で講演 知識と関心「紛争終結の力に」
- 北日本新聞 | ウガンダ支援紹介「多様な世界を知って」
- 公明新聞 | “忘れられた紛争地”コンゴの現状
- 第三文明 | 激化するコンゴ東部の武力紛争 テラ・ルネッサンスが緊急人道支援を開始
- 聖教新聞 | 〈フォーカス 平和運動〉今回のテーマ：子ども兵

その他メディア

- 京都府HP ふるさと×NPO 京どねーしょん | 【インタビュー記事】京都から、学びと支援で世界に平和を広げたい！
- NIKKEI The STYLE | 進化する手芸、家庭から世界へ 1000万人が手を動かす理由
- サステナブル・ブランド・ジャパン | 飢餓の大地に希望の種を——26歳ウガンダ駐在員が見た支援の現場と可能性
- 風傳媒 日本語版 | 震災から生まれた大槌刺し子 女性刺し子職人の手仕事の世界へ羽ばたく
- City Life News | 飢餓からの脱却をめざし、自立を促す「農業支援」に取り組む



2025年度 活動地

テラ・ルネッサンスは 日本を含む**10の国と地域** **13の拠点**で

活動しました

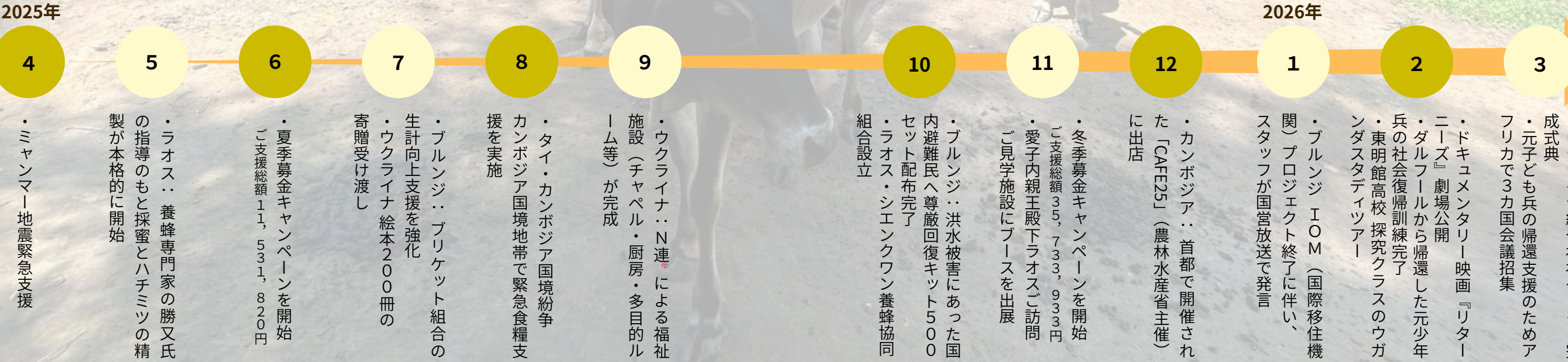
紛争の影響を受けた人々の
自立支援を中心に、
緊急・人道支援、
教育、生計向上、
元子ども兵の社会復帰・帰還支援に
取り組みました。
支援事業地以外では、
啓発活動や平和教育を通じて
広く市民の参画を呼び掛け、
社会変革のための
関係性を培いました。



2025年度 支援事業プロジェクト一覧

	国名	分野	事業名	直接受益者	間接受益者
アジア	カンボジア	生計向上、教育	カンボジア地雷埋設地域村落開発支援フォローアップ	140世帯	
		生計向上	カンボジア地雷埋設地域の農業協同組合運営強化支援事業	6名、40世帯	287名以上
		生計向上、教育	カンボジア農村社会変革リーダー育成事業	8名	40名
		教育	カンボジア地雷埋設地域スラエ・スダウ小学校追加支援事業	94名	
	ラオス	生計向上、不発弾回避教育	子供向け不発弾回避教育の持続的実施体制の構築と脆弱性への生活基盤強化プロジェクト ※ N連事業	3,509名	5,525名
		生計向上	ラオス・シェンクワン県の不発弾汚染地域における生計向上および環境保全支援	4名	334名
		不発弾回避教育	テクスシェンクワン県ベック郡における子どもの学習環境改善プロジェクト	230名	2,000世帯
	タイ	教育	タイ国内の受刑者家族への教育支援奨学金事業	20名	
	ミャンマー	緊急・人道支援	ミャンマー中部大地震に対する緊急支援活動	600名、731世帯	
ウクライナ	ウクライナ	緊急・人道支援	ウクライナ避難民およびホストコミュニティの生活再建プロジェクト	約600名	
		緊急・人道支援	ウクライナ難民の生活支援プロジェクト	約2000名	
		緊急・人道支援	ウクライナ戦争被害者を対象とした生活再建・福祉向上支援を目的とした総合福祉センターの建設プロジェクト ※ N連事業	23,651名	

	国名	分野	事業名	直接受益者	間接受益者
アフリカ	ウガンダ	社会復帰・帰還支援	ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト	元子ども兵49名 およびその受け入れ家族	
		生計向上、教育	ウガンダ北部における最も脆弱な若年層レジリエンス向上プロジェクト	16名	
		生計向上、社会復帰・帰還支援	ウガンダ北部における子ども兵の「ペイフォワード」支援事業	200名	
		生計向上	カラモジャ地域における生計向上と食料生産力強化によるレジリエンス向上プロジェクト	150世帯（推定1,050名）	
		緊急・人道支援	南キブ州における脆弱層レジリエンス向上プロジェクト	6,000名	
	コンゴ民主共和国	生計向上	中央カサイ州における紛争の影響を受けた最脆弱層に対するレジリエンス向上プロジェクト	290名	約10,000名
		社会復帰・帰還支援	神の抵抗軍の動員解除及び社会復帰支援プログラム	100名	
		生計向上	カタンガ州における子ども・若者に対する収入向上支援プロジェクト	20名	
		生計向上	ブリケット生産を通じた社会的弱者の生計向上と複合的リスクへの意識向上によるレジリエンス向上強化プロジェクト	320名	25,950名
	ブルンジ共和国	生計向上	ブルンジの社会的弱者世帯の子どもへの保護と自立支援プロジェクトフォローアップ	600名	
		緊急・人道支援	ブルンジにおける洪水被害者への緊急支援	500名	



※ N連とは：外務省が実施する「日本NGO連携無償資金協力」の通称です。日本の国際協力NGOが開発途上国で行う経済社会開発事業等に対し、政府開発援助（ODA）として資金を供与する制度です。

ひとり一人に未来をつくる力がある

Activities 活動報告

Unit I

人生を取り戻す

元子ども兵の帰還支援
・社会復帰支援

Unit II

命を守る

緊急・人道支援

Unit III

未来を切り拓く

教育・生計向上支援

Challenges テラ・ルネッサンスが取り組む課題

子ども兵

地雷・不発弾

貧困の連鎖

紛争鉱物

Unit I

人生を取り戻す

テラ・ルネッサンスは2005年から元子ども兵の社会復帰支援を実施。3年間のプログラムで心のケアや基礎教育、職業訓練、実習を通じた自立に寄り添います。2023年からは投降や脱出を促す「帰還支援」にも取り組んでいます。

BACKGROUND

誘拐され、兵士にさせられた子どもたち

ウガンダには、1980年代後半より、武装勢力LRA（神の抵抗軍）に誘拐され、自らの意思とは関係なく兵士として戦わされる子どもたちの現実があります。これまでに38,000人以上もの子どもたちが誘拐され、その被害は周辺国にも広がっています。米軍を含むアフリカ各国による軍事作戦が行われましたが、完全には制圧できませんでした。現在LRA紛争は、アフリカで最も長く続く紛争の一つとなっています。テラ・ルネッサンスは、「帰還支援」により組織を内部から平和的に解体することで、市民の手でこの紛争を終わらせることに挑戦しています。



key numbers FY2025

77人

職業訓練を終了した
元子ども兵



48人

LRAから動員解除した
元子ども兵の数



120人

ペイフォワード（元子ども兵
21名が支援した地域住民の数）



1回

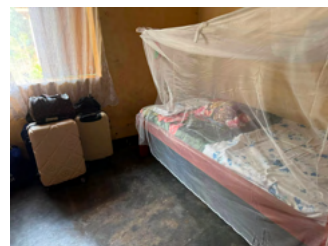
3カ国政府間会議の招集



伴走の設計図 ― 基本となる、3年間の社会復帰支援プログラム

U g a n d a / D R C o n g o
ウガンダ / コンゴ民主共和国

再起のために必要なこと



いのちの基盤を整える

衣・食・住
医療チェックと治療など



心の傷を癒す

心理社会的支援
伝統ダンスなど



社会との絆を取り戻す

平和教育・基礎教育・
和解の集いなど



生きる術を身に着ける

職業訓練・開業支援
ビジネスの伴走支援

職業訓練の修了式までで1年半、ビジネス支援期間が1年半

職業訓練を終えるとグループや個人で小規模ビジネスを開業しますが、技術・人間関係とも最初からうまくはいきません。本当に自立できるまで、さらに寄り添う支援が必要です。

修了式典は重要です

修了式には、政府関係者や地元のキーパーソンをお招きし、皆で卒業生の前途を祝います。そして、ビジネスに必要な基本セットを一人ひとりにプレゼントします。自分は立派に技術を身に着けたことに自信をもち、地域社会の皆が応援していることを、あたたかい拍手と激励のスピーチで実感します。



2026年3月、コンゴ民主共和国で、職業訓練プログラムを終えた元子ども兵たちの修了式が執り行われました。式典には政府関係者も出席し、苦難を乗り越え再起の出発点に立つ卒業生をたたえ、門出を祝いました。卒業生たちはこれから、学んだ技術で仕事を得て、実社会で生活する実習のフェーズに入ります。グループや個人で開業するためのミシンと布地などの基本セットが一人ひとりに授与されました。

修了式の様子を報じた現地メディア記事

『コンゴ民主共和国：NGO「APRu*」と、テラ・ルネッサンスを通じて支援を行う日本国民が、LRAの元戦闘員の社会復帰を支援するため、洋裁キットを提供した』

*APRuはコンゴで職業訓練の場所の提供等に協力するパートナー団体です

Local Voice

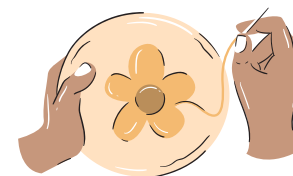


テラ・ルネッサンスで
受け入れた頃

パスカリーナさん

11歳の時に誘拐され、13年間LRAに拘束されました。

その間、強制結婚（性暴力）で出産した子どもと生き別れになったり、様々な過酷な経験をした元少女兵です。戻ってきた頃は、自分の未来を自分の意思で選択できたことなど一度もなかったと過去を嘆き、涙を流していることもありましたが、彼女は、1年半のフルタイム職業訓練を無事に終えて、洋裁や服飾デザインの技術を身につけ、2025年の夏、洋裁店を開業することができました。現在はビジネス支援期間中で、自分で働きながら、専門スタッフの技術的なサポートやビジネスのコンサルテーションを受けています。



「まだ難しいこともありますが、初めて自分の力でお金を得ました。今は子どもを養うことができています。私も、少しおしゃれを楽しんだりしています。隣近所とは仲良くするよう心がけて、地域になじむ努力を続けています。」



Local Voice 「大丈夫。私はあなたの未来の姿だから——自分を信じて。」



2026年3月、コンゴのファラジェで、1年半の職業訓練を受けた16名の元少女兵たちの修了式が行われました。そしてまさにこの日、あらたに保護された元子ども兵たちが、施設にたどり着いたので。帰還したばかりの元子ども兵たちの手を握り

抱きしめる修了生たち。彼女たち自身、まだ再起の道半ばにあります。それでもこの日、戻ってきた元子ども兵たちへと、しっかりと希望のバトンが渡されました。

人生を取り戻した人が、次の人生を救う。500人帰還プロジェクト

Uganda / Central Africa / D R Congo
ウガンダ / 中央アフリカ / コンゴ民主共和国

故郷に帰ることができた、私の姿を見てほしい

今は職業訓練を受け、新しい人生を歩んでいる。
テラ・ルネッサンスは私を受け入れてくれた。
君たちも帰れるんだ。安心して戻ってきてほしい。



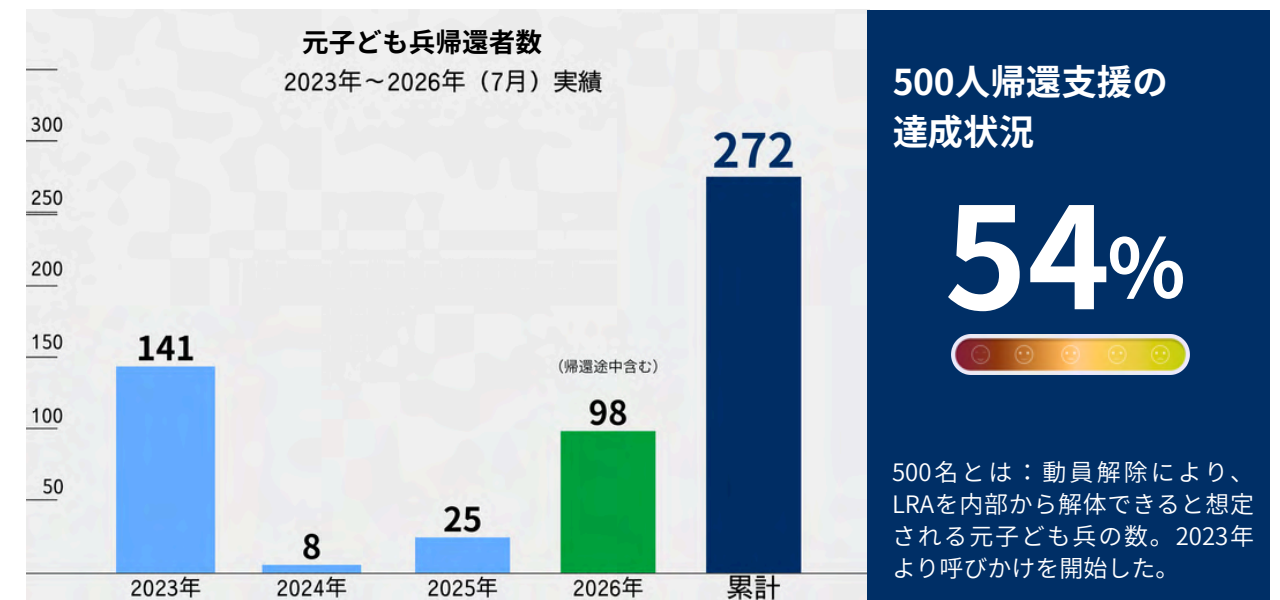
※ 帰還を呼び掛けるビデオメッセージより

当事者の声だからこそ、
絶望した心を動かせる

「どれだけ多くの子どもたちが人生を取り戻しても、紛争が続く限り、新たな被害が生まれ続けてしまう。」私たちは長年、大きな葛藤を抱えて活動してきました。しかし、皮肉にも歳月の経過が私たちに味方しました。現在、LRAはかつてないほど弱体化しており、戦闘員の大半は成長した元子ども兵やその子どもたちです。彼らを動員解除できれば、LRAは内部から解体する——それが、2023年に開始した紛争を終わらせる挑戦の根底にあります。そして、この挑戦の鍵を握っていたのが、「スマイルハウス」を卒業した元子ども兵たちでした。支援を受けた彼らは、LRA内部に残され

たかつての仲間を、「救い出したい」と強く願ったのです。LRAの戦闘員にされた人々は「帰れば殺される」と信じ込まされており、政府やNGOが帰還を呼び掛けても、届きません。信じるのは、同じ経験をしてきた「元子ども兵」たちの声だけです。社会復帰を果たした彼ら・彼女らが、ビデオメッセージで「私たちはだまされていた。帰っても大丈夫」と呼びかけ、その声をテラ・ルネッサンスが届けています。「500人帰還プロジェクト」は、草の根のNGO、各国政府、そして当事者が手を取り合った前例のない取り組みとして、いま、加速しています。

Update 市民の力が、平和構築を動かし始めています

2025年度以降、
この挑戦は大きく前進しましたテラ・ルネッサンスの呼びかけで周辺3カ国が結集
——元子ども兵の安全な帰還を目指して、初の政府間会議を実現しました！

小川真吾

テラ・ルネッサンス小川真吾の呼びかけにより、ウガンダ・コンゴ・中央アフリカの政府要人が一堂に会し、元子ども兵の帰還と社会復帰について、国家間で初めて話し合いが行われ、テラ・ルネッサンスの帰還支援に協力する形で、基本合意が形成されました。

Staff Voice

皆様のご支援に、心から感謝申し上げます。今、アフリカで最も長く続いた紛争の1つを、市民の力で平和的に終わらせる千載一遇のチャンスが来ています。ここで手を緩めれば、新たな勢力から資金や武器が供給され、悲劇が再燃しかねません。今年、来年でやり切る覚悟です。ただし、帰還はゴールではありません。社会復帰のサポートがなければ、彼らは再び武装勢力や犯罪へと追いやられてしまいます。一人ひとり事情も歩むスピードも違う人間だからこそ、私たちは寄り添い、自立するその日まで、見守っていきます。どうか、最後まであたたかく見守り、お力をお貸しください。

海外事業部長
小川 真吾

Unit II

命を守る

テラ・ルネッサンスの活動の根幹は自立支援です。けれど、目の前の命が危機に瀕しているとき、私たちはためらわず手を差し伸べてきました。それは、人として大切にしたい行動であり、支援者の皆さまとも同じ想いを共有していると信じています。



key numbers FY2025

7,200人

日々の安全な水へのアクセス



292世帯

緊急食糧支援



650人

緊急医薬品支援

731世帯 +
400人

地震・緊急人道援助



35人

新生児のケア用品



200人

教育支援物資



25,000食

炊き出し



300人

冬を越す燃料



Cambodia

カンボジア

タイ・カンボジア国境紛争に伴う
緊急食糧支援

タイ国境沿いの村で米の緊急支援を実施

2025年7月、タイ・カンボジア国境沿いでの衝突激化に伴い、各地で空爆や砲撃が発生しました。双方で犠牲者が出たほか、50万人以上が避難し、タイからの出稼ぎ労働者の帰還や物流の断絶により、経済が止まり、人々の生活は大きな打撃を受けました。村の子どもたちは、大人と共に、食べられる果実を探しにいく状況にありました。

▶292世帯への緊急食糧支援

テラ・ルネッサンスは、過酷な状況下にある住民を支えるべく迅速に動きました。安全上の理由で日本人スタッフの移動が制限される中、現地スタッフが村長

や農協などのネットワークと綿密に連携。配給用のお米を調達・手配し、食料不足に直面した計292世帯へ緊急の米支援を実施。また、12月に再度紛争が激化した際には、バットアンバンで孤児院を運営する日本人の方からお米などのご支援をいただき、生活の支えとして届けました。家畜を守るため一人村に残る人々や、避難先から戻った帰還者、生活基盤を奪われた最貧困層の家族は、「家畜の世話を続けながら生活を繋ぐことができた」と安どしていました。厳しい情勢は今後も予想されます。テラ・ルネッサンスは現地に根ざした活動で培った強固な信頼関係を活かし、今後も活動を続けてまいります。

Staff Voice

長い歴史的な確執はありながら、カンボジアの人々とタイの人々は、国境を越えて深く支え合っていました。お互いの心温まる支援や協力があったことも、忘れてはいけません。例えば、カンボジア内戦の際、タイ側には難民キャンプが作られました。地雷で事故に遭った時に、真っ先にやってきて、タイ軍の兵士たちが懸命に救助してくれたことで命が助かった事実を、カンボジアの地雷被害者が私たちに語ってくれました。また、カンボジアの人々とタイの人々は、共にビジネスのパートナーとして、経済を支え合ってきました。国という単位で全体をくくることは、時に様々な異なる考えを持つ人たちが、その中にいることを忘れてしまいます。私たちは、誰もが平和な社会をつくりたいという願いを持っていると信じています。「分断」の道ではなく、子孫たちが将来にわたって共存共栄し、幸せを感じられる社会を作れるのは、今を生きている私たち一人ひとりです。

アジア事業マネージャー
江角 泰

2008年3月より18年間カンボジアに駐在。タイとカンボジア国境で困難に直面する人々への支援を模索し続けています。

2025年ミャンマー地震（マンダレー地震） 被災者への緊急支援

M y a n m a r
ミ ャ ン マ ー

地震でがれきと化した町

2025年3月にミャンマー中部で発生した大地震に対し、テラ・ルネッサンスは東南アジアでの長年の平和構築支援で培った知見やネットワークを活かし、緊急人道支援を実施しました。

▶現地に渡りパートナー団体と連携

内戦下で国際支援が届きにくい被災地（マンダレー管区・サガイン地方）において、怪我の治療や水・衛生環境の悪化、モンスーン接近に伴う仮設住居の不足等の緊急ニーズに対し、地域コミュニティに根ざした現地パートナーと連携する体制を構築。サガイン遠隔地への水ポンプ4台の寄贈（飲料水確保）、山岳エリアの尼僧・僧侶約400名への食料・医薬品・仮設シェルター材料の提供、タダウー地区・ミンラン等の被災世帯（計731世帯）への緊急物資・食料の調達・配布を実施しました。さらにインワ地区の子どもたち200名への文房具提供など、多角的な支援を展開しています。本支援は毎日新聞大阪社会事業団の助成金やクラウドファンディング「For Good」などによるご支援で実現しました。



緊急物資・食料の配布を実施



子どもたち200名への文房具提供

Staff Voice

避難生活を送る人々や、過酷な状況下で見過ごされがちな高齢者の方々へ、皆さまからのご支援のもと、清潔な水や医療費、食料や防水シートといった命をつなぐ物資と生活支援金を直接届けることができました。「目の前の命を救いたい」という強い想いで、過酷な環境下で迅速に希望を繋ぐことができたのは、温かい手を差し伸べてくださった支援者の皆さまのおかげです。当時の混乱の中、支援を無事に届けられたことに深く感謝申し上げます。

長期化する戦争下で、最も脆弱な命を守る
キッチンポイント／総合福祉センターの完成U k r a i n e / H u n g a r y
ウ ク ラ イ ナ ・ ハ ン ガ リ ー

総合福祉センター（2026.3月完成式典の様子）

ウクライナでは、ハンガリーとの国境地帯にある西部ザカルパツチャ州で、支援から取り残された方々の命と暮らしを守る活動を続けています。

▶年間25,000食の炊き出し、各戸に手配りして孤立を防止

現地パートナーである東方典礼カトリック教会と連携し、6か所の厨房拠点から年間延べ25,000食（約250名分）の炊き出しを行い、個別に手渡しで配給することで、孤立や孤独死の防止に貢献しました。

▶過酷な冬に、炭燃料10トンを100世帯へ

生活物資や寒波に備えた炭燃料10トン（100世帯・約300名分）などを供与。また、支援対象者を雇い入れる社会貢献型現金給付支援（CSCs）を通じ、厨房スタッフ20名や倉庫管理・ドライバー等10名の生活維持を支えています。

▶総合福祉センターがついに完成！

ベレホヴェ市にて建設を進めていた「総合福祉センター」が2025年10月ついに完成。2026年3月、創設者の鬼丸や佐々木事務局長、地元関係者の出席のもと完成式典が行われました。今後は、管理・運営を地元パートナーの東方典礼カトリック教会へ移管し、本格稼働に向けて準備を進めています。

ハンガリーでのウクライナ難民支援

マリアポーチ村の滞在施設に身を寄せる高齢者（約10名）へ月1回の日用品提供と傾聴による心のケアを実施。復活祭の巡礼者約500名へ軽食等を提供しました。厳しい情勢下でも、命をつなぐ食料・物資の届かない隙間を埋め、地域社会と協働した支援を継続しています。



キッチンポイントで温かいスープや家庭料理の炊き出しを行う。イースターにはたくさんのパンを焼いてお届けし、喜ばれた。



炊き出しをお届けするご家庭は、戦争で男手や若者が不在となり、取り残されている高齢者宅も多い。目が不自由な方、寝たきりの方もいる。また、高齢者の介護のために、働きたくてもままならないシングルマザーなど、現場ではさまざまな支援が必要とされている。

コンゴ M23紛争激化の中、緊急医薬品・安全な水を届ける

D R C o n g o
コンゴ民主共和国



天然水を利用した給水所で、朝から水を汲む女性と子どもたち

2025年2月14日に M23 がブカブ市へ侵攻して以来、南キブ州の住民は現在も命と暮らしの危機に直面しています。事務所があるブカブ市は完全に M23 の支配地域となり、カロンゲのフィールドオフィスに向かうには、戦闘が継続する前線を越えなくてはなりません。現地スタッフも命懸けで既存受益者のモニタリングや緊急支援にあたっています。

▶病院への医薬品支援

物資が途絶えたウビラ総合病院やカロンゲ病院へ緊急医薬品を搬送し、500名以上の命をつなぎました。

▶7,000名以上へ安全な水へのアクセスを確保

カロンゲでは遠方への水汲みにおける性暴力被害のリスク低減と感染症予防のため、湧き水を活用した給水設備4か所を整備。約1,200世帯（約7,200名）に安全な水を届けることができました（2026年7月現在は5か所目が完成しています）。

▶隣国ブルンジへ逃れたコンゴ難民への支援

ブルンジ事務所を通じて緊急支援を実施。約150名分の医薬品と、妊娠8ヶ月以上の妊婦35名へ粉ミルクや衛生用品、毛布などを提供しました。避難してきた妊婦さんからは「何も持たず避難し、生まれた子どもを地べたに寝かせるしかないと思っていたが、毛布で包んであげられる」との声が寄せられています。危険と隣り合わせの現場ですが、皆様のご寄付と地域住民との20年間の信頼関係を力に、今後も命と暮らしを守る活動を続けてまいります。



カロンゲの病院を支援



出産に備えベビー用品を受け取るコンゴ難民の女性たち（ブルンジ共和国にて）



Staff Voice

20年にわたりテラ・ルネッサンスがコンゴで積み重ねてきた支援。乳製品の製造などが地域の産業として根付き始めていた矢先、激化した紛争が一瞬でそれを壊していきます。後ろで爆撃の煙が上がる中、避難する人々の姿。現地から届く報告に、共に歩んできた住民の方々、スタッフの安全への心配が尽きません。爆撃により様々なものが破壊されています。最たる破壊は、人々の命と暮らし、尊厳です。父親を失い、家族を支えるために金属スクラップを探していた子ども2人が、不発弾に触れて、命を落としました。今なお繰り返される悲劇に、深いやるせなさを覚えます。それでも、現場では今もスタッフがバイクで危険な地域を行き来し、私たちがサポートしている人々の貯蓄の保全や、給水設備（2026年度に5か所目が完成、合計1万人以上が利用）の建設など、今必要な活動を力強く継続しています。一人でも多くの人々、子どもたちが無事に明日を迎えることで、未来の平和をつくる礎となります。



海外事業部長 小川真吾
（ウガンダ駐在）

Local Voice

（ブルンジのコンゴ難民サイトで新生児用キットを手にした妊婦さんの声）

故郷の戦争から着の身着のまま逃げてきた私たちを、こうして温かく支えてくださり、心から感謝しています。『ありがとう、ありがとう』と何度伝えても足りません。私たちを支えてくださった皆さん、そして現場で活動するテラ・ルネッサンスの皆さんに神様の御加護がありますように。皆さんの差しのべてくださった手が、さらに豊かに報われることを願っています。戦禍のなかで行方不明になってしまった仲間や、今も助けを必要としている人々がまだたくさんいます。どうか彼らにも手を差し伸べてあげてください。彼らもきっと、私たちと同じように感謝を伝えるはずです。



未来を切り拓く

一時的な支援ではなく、人々が自らの力で未来を変える手段を届けています。基礎教育や職業訓練を通じ、誰もが尊厳を持って自分の足で歩み出せるよう、一人ひとりの「自立」に寄り添い続けています。



key numbers FY2025

2,235人

不発弾回避教育（EORE）



40世帯

家畜銀行による生計向上



40人

養蜂による生計向上支援



4人

農村社会
変革リーダー修了生

1

地域を結ぶ
養蜂組合の設立

20人

奨学金の支給



320人

ブリケット（練炭）
製造販売による生計向上

76人

紛争下にある最脆弱
層の洋裁技術習得

地域資源を活かした生計向上と、未来の農村を担う人財育成

Cambodia
カンボジア

カンボジアの地雷埋設地域では、紛争の爪痕や隣国との情勢不安といった環境変化の中で、住民が自立して暮らしを営むための多角的な支援を展開しています。

▶家畜銀行（貸出制度）で自立の連鎖が生まれる

豚や鶏、特に信頼性の高いヤギの飼育を通じて、貧困世帯の現金収入向上と食糧自給を支援。一世帯の成功が新たな土地や家畜の購入につながるなど、自立の連鎖を生んでいます。

▶農業協同組合若手職員を育成

持続可能な地域づくりの核となる「農業協同組合（SBSAC）」の運営強化では、若手職員の育成を進め、家畜支援を通じた組合員の収入向上体制を整備しました。

▶未来を担う若者たち、次世代農村リーダーの育成を開始

「農村社会変革リーダー育成事業」では、持続可能な農業やビジネス手法の訓練を実施。修了生が自らの村でモデル農家として実践を始めるなど、地域社会のWell-being向上に向けた新たな芽が育っています。



田植えを学ぶ農業訓練生



堆肥や有機液肥の説明をするテラ・ルネッサンス職員と農協職員

Local Voice

家畜支援を行っている農家さんから「飼育しているヤギが近所の犬に噛まれた」と連絡を受けて、農協スタッフがすぐに現場へ急行。傷口の消毒とともに、患部にはまさかの「蜂蜜」を塗って治療を行いました！実は蜂蜜には傷の治りを早める効果があるのだそう。テラ・ルネッサンスでは現在、農協の担当スタッフ2名が主導して事業を実施できるよう支援しています。地域の人々が自ら家畜飼育事業を回していける「自立と自治」を目指し、日々現場で活動を続けています。



地雷・不発弾

貧困の連鎖

不発弾回避教育（EORE） 制度として根付かせることを目指して

L a o s
ラ オ ス



幼稚園や低学年の児童に歌で不発弾の危険を教える授業

ラオスでは今なお多くの不発弾が残り、人々の命や暮らしを脅かしています。テラ・ルネッサンスは、対象2郡において不発弾事故の被害者をゼロにすることを旨として不発弾回避教育事業を展開しています。

▶幼い子どもたちの命を守る教育と環境の整備

不発弾のリスクを正しく理解し回避できるよう、対象地域にて「EORE（不発弾回避教育）センター」4棟を建設しました。同センターは不発弾に関する情報発信や各種訓練・ワークショップの拠点となるほか、村人たちが日常的に情報交換を行えるコミュニケーションの場としても機能しています。さらに、特にリスクが高い幼稚園生および小学校1・2年生といった幼い子どもたちを対象に不発弾回避教育を実施。教員や各村の住民ボランティアが教育手法を身につけて実践することで、子どもたちの不発弾回避に関する理解を確実に向上させています。

▶自律的・持続可能な実施体制の構築へ

最大の課題は、プロジェクト期間終了後に地域社会が自主的に活動を維持・継続していく体制の確立です。プロジェクト終了後も学校の教員や地域住民が主体となって教育を継続できる仕組みづくりに注力しています。また、不発弾回避教育総合センターの利用率向上に向け、施設の多角的な有効活用策を模索しながら、地域に根ざした持続可能な安全・安心の基盤を築いてまいります。



不発弾回避教育を導入した小学校で、先生方に継続の重要性を訴えるラオス事務所長 岩村



不発弾回避教育総合センターは利用率向上に向け、他団体との連携も視野に入れて取り組んでいく



▶養蜂組合の設立

多数の不発弾が残るラオスのシエンクワン県で、テラ・ルネッサンスは不発弾被害者や生活困窮者を対象に、危険の少ない「養蜂」の技術・ビジネス支援を行っています。政府や住民と協働しながら、2025年10月に「シエンクワン養蜂協同組合」が正式に発足しました。この地域で作られた高品質で美味しい蜂蜜をラオス国内、そして世界へ届けるという村人たちの夢を応援しています。

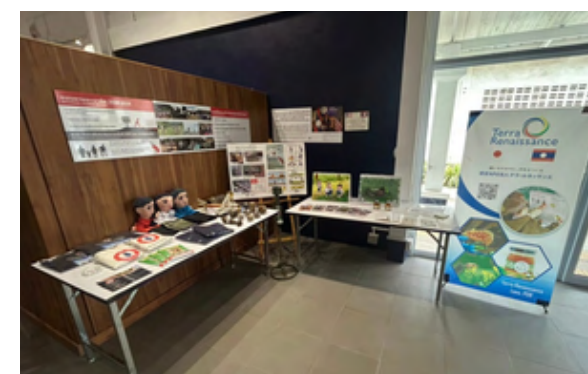
Staff Voice



ラオス事務所長
岩村華子

2025年11月の、愛子内親王殿下下のラオス、コープビジターセンターご訪問は、私にとって忘れられない出来

事となりました。ラオスは、今なお世界最大の不発弾汚染国であることは、あまり知られていません。今回、ラオス国外のNGOとして**唯一展示の機会をいただき**、皇室の方に私たちの活動や地域の現状をお伝えできたことは、大きな励みになりました。不発弾回避教育や養蜂支援は、単に事故を防ぎ、生計を支えるためだけではありません。**ラオスの人々が安心して暮らし、未来への希望を育てていくための取り組み**です。この訪問をきっかけに、一人でも多くの方がラオスの現状に関心を寄せてくださることを願っています。



愛子内親王ご視察時のテラ・ルネッサンスの展示の様子

【タイ】奨学金の提供／国境地域ミャンマー難民の支援の可能性について調査

T h a i l a n d タ イ



ピブーンソククラム財団へ40,000バーツ（約18万円）の奨学金を提供しました。財団を通じて、親が麻薬受刑者である子どもたち20名（1人あたり2,000バーツ）へ奨学金が届けられます。タイでは麻薬問題が選挙の政策課題になるほど深刻化しており、12～65歳の約2%（約150万人）が過去1年間に覚醒剤を使用したとも報告されています。つらい境遇にある子どもたちが教育を受け、未来へ向かって歩むことを応援します。また2025年度は、タイ・ミャンマー国境地域の避難民支援に向けた現地調査を実施しました。その結果、避難民が直面している苦難がタイ国内で広く知られていない実態が判明したため、今後はタイ国内での啓発活動にも取り組んでいく予定です（一部、医療支援も開始しています）。タイ事務所は今後もアジア地域のハブ的役割を果たしながら、困難な立場にある人々の自立を支援してまいります。

コンゴ 紛争下における自立支援と平和構築 ／ 支援を受けた女性が他の人々へ知識を伝達

D R C o n g o
コンゴ民主共和国



GO！テラルネ号

悪天候で市場の建物の屋根がこわれた為、修理のために悪路の中、資材を運びます。しばしば動けなくなることもあります、少しずつ、しかし確実に進みます。



診療所の運営支援

中央カサイ州バクア・カニンガ村に、2022年にUNDP（国連開発計画）と協働して建設した市場は、フォローアップによって活気あふれるマーケットに成長しています。地元の人々、特に女性の意見を聞きながら、より使いやすい市場になることを目指してきました。対立関係にあった2村の中間地点に建てたのですが、対立するバクア・ンダエ村の女性たちも使用するようになり、両村の平和を醸成する場になりました。近隣の村々との交流の場にもなっています。3年目に入った今も、毎週、月曜日にこの市場が開き、3,000人以上の人たちが、利用し続けています。

▶南キブ州：紛争下における自立基盤の構築

2025年1月のM23侵攻により脆弱な立場におかれた女性76名に対し、洋裁技術訓練を実施しました。

▶中央カサイ州：「地域経済の担い手」へ

ジュース製造・石鹸作り・農作物加工のグループが成長し、地域住民を雇用するまでに拡大しました。また、技術を得た受益者が他の女性へ洋裁を教えるなど、波及効果が生まれています。

▶ディベレンゲ（農村部）：地域インフラの維持とコミュニティの安定

建設済みの診療所や市場の運営管理を支援しました。

Local Voice



「1台のミシンが、私と地域の未来を変えてくれました」

かつての私は決まった収入がなく、子どもの学校代や病院代も払えるか分からない、不安な毎日を送っていました。大きな転機は洋裁の研修を受けたこと。1台のミシンをもらった時、「これで新しい人生を切り拓こう」と心に決めました。服を仕立てて、コツコツ貯めたお金で、自分でミシンを2台買い足しました。そして自分が覚えた技術を近所の女性たちにも教えました。これまでに30人以上に技術を伝えましたが、彼女たちが自分の店を持ち、さらに次の人に技術を教えていく姿を見るのが本当に誇らしいです。「努力すれば、人生は変えられる」。ミシンを届けてくれた日本の皆さん、本当にありがとうございました。

カムアニャ・カザディ・アルフォンシーヌさん
コンゴ民主共和国・カナンガ市在住

ブリケットの製造販売による生計向上支援

B u r u n d i
ブルンジ共和国



ブリケットを製造する女性たち。

ブルンジでは、ストリートチルドレンを抱える最貧困世帯やシングルマザーなど、社会的弱者とされる人々の複合的な課題に、リサイクル練炭（ブリケット）の生産・販売を通じて生計向上支援を行っています。

▶持続的な支援モデルを構築しました

34名の住民で結成された協同組合が生産と卸売を担い、さらに30名の販売員が小売販売を担う、地域経済を巻き込んだ持続的な支援モデルです。開始から1年が経過し、対象者たちの製造技術は着実に向上。乾燥室を追加建設するほど生産力が伸び、販路の拡大に向けて力強く前進しています。

▶近隣住民にも波及する循環型の仕組み

原材料となる「とうもろこしの芯」を近隣住民から買い取り、廃棄物の資源化を通じてコミュニティ全体に

新たな現金収入の機会（2025年度実績：約38.4トン／約36.8万円分）を創出しました。

▶過度な森林伐採の防止効果も

薪や木炭に代わりブリケットが普及することで、地域の過度な森林伐採を防ぎ、環境保護にも大きく貢献しています。

▶仕事が女性たちの生きる誇りに

自分の手で働き、安定した収入を得る経験は、過酷な状況に置かれていた女性たちが「生きる誇り」と「将来への希望」を取り戻すきっかけとなりました。以前は隣人や家族から蔑ろに扱われていた人が社会の中で居場所を取り戻し、社会的な関係性の回復にもつながっています。彼女たちが未来を切り拓く力強い歩みに、これからも寄り添い、共に歩みます。

Local Voice

以前は、生活のために売春や日雇い仕事をして、食いつなぐのが精一杯でした。でも毎日働きに行ける場所ができ、少しでも貯金もできるようになり、家畜を飼うという目標もできました。子どもに「お母さん輝いてるね」と言われた時は、本当に嬉しかったです。私の生活は大きく変わりました。皆さんの優しい心に感謝してもしきれません。私も私にできることを継続していきます。皆さまに神のご加護がありますように。

ブルンジのシングルマザー



灌漑農業で自立し、飢餓とたたかう

U g a n d a
ウガンダ（カラモジャ地域）

「食べ物も未来もない」と諦めかけていた地域に、今、青々とした畑と笑顔が広がっています。灌漑設備の整備から始まった取り組みは、食糧不足の解消だけでなく、住民の自主性や助け合いの芽を育みました。

▶**自給食料の確保と生計向上によるレジリエンス強化**

灌漑設備を使った農業では、トマトやナスなどの野菜や穀物を安定して育てられるようになり、自分たちの食べ物を確保するだけでなく、販売して年に2回の利益配分もできるようになりました。

▶「食と栄養」と、多様な生計手段への挑戦

栄養改善ワークショップの開催に加え、自家消費用野菜の栽培により子どもの健康状態が向上。スイカ栽培など新たな事業にも挑戦し、生計の多様化を進めています。貯水池を活用した魚の養殖事業も初収穫し、地域住民に初めて売れました。魚の調理法も学びました。

▶**チームビルディングを通じた自主性の高まり**

住民たちがグループで助け合って農場を管理できるよう、読み書きや計算の研修を続けています。スタッフとの対話やチーム作り（チームビルディング）を重ねる中で住民の自主性が育ち、全5グループ中2グループが、自分たちだけで帳簿をつけられるまでに成長しました。



カラモジャの荒野に広がる共同農場。テラ・ルネッサンスが掘った巨大な灌漑池から水をひき、現地の人々がクワで耕した



貯水池に放流した魚の養殖（ティラピア・ナマズ）の初収穫

＼ 私たちの誓い ／

信頼を深めるためにカラモジャ事務所で実施すること

- 1. Integrity : 誠実さを持つ**
 - **Accountability (説明責任と自律)** 自分の行動や決断に責任を持つこと。他人のせいにしていない
 - **Authenticity (自分らしさと真実味)** 自分を偽らず、本音で向き合うこと
 - **Trustworthiness (信頼に値する行動)** 期待に応え、頼りがいのある、信頼される人間であること
 - **Transparency (透明性)** 良い情報も悪い情報も、オープンに共有すること。明確なコミュニケーションを心がけ、相手の話に真摯に耳を傾ける（積極的傾聴）
- 2. Have belief in others : 仲間を信じる**
相手を信頼して任せること。同時に、こちらからの積極的なコミュニケーションを欠かさない
- 3. Be honest with the team : チームに対して正直であること**
 - 常に正直な姿勢でチームに向き合い、隠し事をしない
- 4. Work together : 一丸となって働く**
 - バラバラになるのではなく、強い結束力（団結）を持って取り組む
- 5. Deliver the right information at the right time : 適切な情報を、適切なタイミングで**
 - 必要な情報を、必要な時に、必要な人へ確実に届ける

Staff Voice

事務所スタッフが一人ずつ自分の想いを共有し、チームとしてまとめました。私は特にAuthenticity（自分らしさと真実味）がお気に入りです。一人ひとりが自分らしくありながら、心地いいチームとして調和する。支援対象者の一人ひとりに寄り添う、その基盤としてこのチームの中から確かな平和が生まれていけば。そんなことを思います。

カラモジャ事務所長 川島綾香



Local Voice

活動に参加する前はどうやって葉物野菜を料理するのも知らなかったし、食べたこともなかった。訓練を通して野菜に栄養があることやバランスよく食事することを学んだから、今は出来るだけいろんな食べ物を食べるようにしてる。子ども達が病気になる頻度が少なくなったような気がするの。もちろん今でも病気になる時はあるけど、以前より、子どもも大人も強くなったと思う！



パウリナさん（農業グループリーダー）

Local Voice



支援対象者の方たちが住む村の、リーダーをつとめる女性

カラモジャは昔から食べものが少なく、外国からの支援に頼る苦しい暮らしでした。特に数年前は（2022年）酷い飢餓で、この村でも多くの命が失われました。テラ・ルネッサンスがやって来て『自分たちの手で作物を育てよう』と提案してきた時、最初は信じられませんでした。これまでも、欧米から多くの支援団体が来ましたが、何も変わらず去って行ったからです。ですが今では畑でトマトやナスを育て、近隣で売れるまでになりました。私が大切に持っているこの缶は、自分の収入で買った野菜の種です。私たち自身が農業を覚え、未来に希望が持てるようになってきました。テラ・ルネッサンスがこれからもこの土地と共に歩んでくれることを、心から願っています。



ひとり一人が、変革の主体者

Movement 社会変革



伝える。つながる。

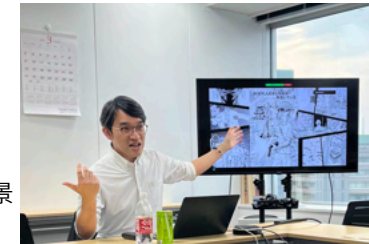


講演聴講者数

約2,260人

日本 およびタイ、台湾での講演も含まれます

企業から一般まで幅広く現地声を届け、一人ひとりが平和の担い手として一歩を踏み出す重要性を、情熱をもって訴え続けました。

企業内での講演風景
(日本)

海外での講演 (タイ)



イベント

オンラインイベント
会場イベント
ブース出展・展示

21件
約950人

報告会やブース出展など様々なイベントを実施。現地を身近に感じ、共に支援を考えるきっかけをつくりました。

駐在員帰国時
イベント

『ワン・ワールド・フェスティバル』は今年もインターン生が運営！



多くの方が訪れる東京のJICA「地球ひろば」で、コンゴでの活動を展示



季節募金キャンペーン

夏季募金キャンペーン

289人

冬季募金キャンペーン

701人

紛争地域の現状を伝え支援を募る季節募金を実施。支援者の皆さまと共に平和をつくる大きな力となりました。

夏季募金テーマ
『平和を求める声に、今、応えたい。』



冬季募金テーマ
『紛争を、終わらせる。2025』



アドボカシー

6/12の児童労働反対世界デーに際して、衆議院会館でスピーチ

児童労働ネットワーク(CL-Net)主催の院内セミナー「児童労働ゼロ、その日はいつ？」に理事長の吉田が登壇し、今なお存在する最悪の形態の児童労働である「子ども兵」の実態について、国会議員や他団体へ向けて訴えました。



12/10 企業向け紛争鉱物セミナー開催



富を生む鉱物が紛争や搾取の原因になる現実を伝え、流通の行動変容を訴える初セミナーを開催。上場企業11社を含む19社が参加しました。

登壇者には当会理事・小川真吾、合同会社継青堂代表執行役の樋口利紀氏、日東電工株式会社の石川みち子氏を迎えて実施しました。

価値をつくる。価値観を変える。

大槌刺し子事業

岩手県大槌町



東日本大震災を機に始まった「大槌刺し子」は、被災した女性たちの生計と生きがいを支える活動から、社会の価値観を変える事業へと進化を遂げています。

2025年度は体制が強化

企業との協働プロジェクト「SASHIKO GALS」が世界から注目され、グローバルブランドや複数の国内アパレルブランドからの受託生産（OEM）が飛躍的に伸びました。Instagramのフォロワーは12万人を超え、新たに24名の刺し子さんに加わるなど、組織の足腰も強化されました。一連の取り組みは、東北の伝統文化や手仕事の価値を伝え、地方においても工芸ビジネスで持続可能なモデルを確立できるという「希望」を示しています。

支援の受け手が、世界が注目する変革の主体者に

震災から15年以上が経ち、支援を受ける側だった現地の人々自身が主体となり、伝統を次世代へ引き継ぎながら事業を独立して運営できる最終フェーズへと差し掛かりました。一針一針に込められたストーリーが世界のトップブランドや消費者を魅了し、支援の枠組みを超えた「新しい共創と価値の循環」を大槌から生み出し続けています。



ニューバランス&サンコギャルズ 日本の伝統工芸「刺し子」を現代カルチャーと融合させるパートナーシッププロジェクトとして実施



ワークショップ風景

問いを立てる。未来を創る。

グローバル人財育成事業

佐賀県基山町



アジア地域で「平和の担い手」となる次世代を育むため、世界へと広がる実践的な教育プログラムを展開しています。

探究授業に参加した高校生がプレゼン大会最優秀賞を受賞

東明館高校探究コースとの連携では、ウガンダの元子ども兵の生計向上を目指し、生徒自らがバイオ炭やコンポストを活用した土壌改良などのプロジェクトを立案。2026年2月の渡航で現地で実行した成果を伝えたプレゼンは「第2回さが探究プレゼン大会」で最優秀賞を受賞しました。プロジェクト前後の調査では生徒の「社会貢献への意欲」が100%に達するなど、深い当事者意識の芽生えを確認しています。

台湾では短期公募型プログラムを実践

台湾事務所では、短期プログラムの参加者を公募。学校の枠を超えて集まった8名の若者が、台湾からカンボジアへ渡航し、テラ・ルネッサンスの事業地を見学。地雷や人権問題を深く学びました。

グローバル人財育成事業へのご寄付は、佐賀県ふるさと納税を通じてでも、行うことができます。



東明館高校の生徒は農業支援とビジネス支援に分かれ、土壌改良などのプロジェクトや、元子ども兵の木工大工店、洋裁店の看板を製作した



台湾から参加した学生たちと、年齢が近いカンボジアの農業訓練生徒の交流

国境を越え、仲間をつくる。

日本で培った平和構築の知見と情熱をアジア、そして世界へ。
国境や言語の壁を越え、多様なステークホルダーと共に支援の輪と「平和の担い手」を広げています。



台湾事業

東アジアにおける支援と理解の深化

各分野で大きな前進を果たしました。啓発面では台湾の中学・大学等で年間23回の講演（累計634名）を実施したほか、「2025アジアNGO国際開発フォーラム」に参加。活動紹介漫画の繁体字版翻訳も完了しました。また、法人会員19社と連携し、秋田での現地学習や台湾企業視察など台日間の相互訪問交流が実現。ファンドレイジング面では、寄附金に加え台湾民主基金会等からの助成金（約218万円）をいただくことができました。国境を越えた強い絆と資金源の多角化に向けた重要な一歩を確立しています。



完成した繁体字版の
まんが「テラ・ルネッサ
ンス」を手にした、台湾事務
所長の香葉村萌とファンド
レイジングマネージャーの
張瑞邦（レイバン）



テラ・ルネッサンス台湾の総会にて。
設立3年目を迎え、総会後の議論は予定時間を大幅
に超える熱を帯びました。「台湾の人々に愛され、
台湾の人々によるNGOになる」という願いが、家
族のように信頼し合う理事やスタッフの手で着実
に形となっています。国境を越え、平和を願う心
が結びついています。（創設者・鬼丸昌也）



タイ事業

現地コミュニティとの信頼構築と本格始動

2025年5月に駐在員2名を配置し本格始動しました。タイ国日本人会主催バザーへの出展や大学講師との協働講演、現地の高校生・学生ボランティアとのワークショップなどを通じ、強力なサポーターコミュニティを形成。さらにミャンマー国境地域での現地調査を進め、次年度以降の避難民支援に向けた確固たるパートナーシップ基盤を整えました。



タイ国日本人会主催バザーへの出展で、テラ・ルネッサンスの活動紹介をしながら仲間づくり



グローバル・アドボカシー／ファンドレイジング活動

世界基準の発信

英語圏の寄付プラットフォーム「Global Giving」や「Benevity」などの活用に加え、英語でのSNS発信を通じて、海外から約1,824万円の寄付を獲得しました。また、理事長の吉田真衣および海外事業部長の小川真吾による学術論文2本が学術誌に掲載されたほか、ブルンジでの8年間の支援成果をまとめた事業評価報告書を発行いたしました。専門的な知見と言語で世界へ活動の成果を発信し、国際的な信頼と知名度をより一層高めています。



Global Giving上で世界に向けた情報発信



ブルンジでの8年間の支援成果の事業評価報告書

ビジネスの力で、平和をつくる。

テラ・ルネッサンスは「**Business for Peace（ビジネス・フォー・ピース）**」を提唱しています。単なるCSR（社会貢献）を超え、企業の核心課題やリーダーシップの探究を通じて、紛争や貧困のない、持続可能な未来を「ビジネスの力」で共に切り拓くことを目指しています。

■ 地域に根ざす法人ネットワーク「TSC」の拡張

共に学び合う法人サポーターコミュニティ「テラ・ルネッサンスサポーターズクラブ（TSC）」。
秋田、東京、千葉、東海、関西および台湾の6拠点に加え、新たに「TSC多摩」の設立や北海道での準備が進みました。



2026年2月 TSC多摩
設立式典（東京）



2025年9月 法人サポーター
全国交流会実施（大阪）

■ 海を越えて響き合う「日台企業交流」

2025年は日本と台湾、相互の企業視察
ツアーが実りました。国境を越えて
「ビジネスで平和を目指す仲間がいる」
という強い共感と連帯が生まれました。



2025年6月 日本のTSCメンバーの
台湾訪問



2025年4月 TSC台湾メンバーの
秋田訪問

■ 現場から学ぶ「経営者向けセミナー」の開催

活動地で目にしてきた「困難を乗り越えるリーダー
シップ」や「組織の関係性の質」を伝える経営者向
けイベントを東京・博多・大阪等で開催しました。



2025年7月鬼丸昌也の活動報告＆懇親会
「今、平和をつくるために」（東京）

Topics



海外の知見を、日本の社会課題へ。 NPO法人あいむと包括連携協定を締結

2025年12月、福岡の繁華街等で支援につながりにくい子ども・若者のアウトリーチ（夜回り）や居場所支援を行う「NPO法人あいむ」と包括連携協定を締結しました。
ウガンダ等で20年以上育んできたテラ・ルネッサンスの「長期伴走型の自立支援」の知見と、あいむが国内の現場で磨いてきた「アウトリーチ支援」を掛け合わせ、日本国内の困難を抱える若者へ「希望の種」を届けるNGO×NPOの新しい協働モデルに挑戦しています。

ご支援・ご連携いただいた企業・団体の皆さま



あたたかいご支援をいただき、ありがとうございました



※五十音順・敬称略 2025年度中に一定以上のご支援をいただいた法人・団体の皆さまを掲載しています。

(ロゴ表記：左上から) 株式会社IKホールディングス / 愛知教職員組合連合会 / アイディール・リーダーズ株式会社 / 公益財団法人味の素ファンデーション / 公益信託アフリカ支援基金事務局 / 医療法人社団郁栄会 / 株式会社エスグランド / オアード株式会社 / 株式会社王宮 / 株式会社オンス・コンフィアンス / 外務省 国際協力局民間援助連携室 / 公益財団法人金子財団 / かみひとねっとわーく 京都(事務局) / 京都橘ライオンズクラブ / 株式会社ゲットイット / 国際移住機関 (IOM) / 独立行政法人国際協力機構関西センター (JICA関西) / 株式会社子安建設工業 / 佐賀県 / 相模原商事株式会社 / 特定非営利活動法人シーエスアールスクエア (CSR2) / 宗教法人真如苑 / 株式会社ストラクス / 公益社団法人青年海外協力協会 / 輝也ブランニング / 株式会社cheerfull / 株式会社東邦レオホールディングス / 株式会社友田神具店 / 株式会社トヨコン / 成田ライオンズクラブ / 株式会社ニコン / 特定非営利活動法人ネットワーク地球村 / 株式会社ビーブルフォーカス・コンサルティング / 福田金属箔粉工業株式会社 / 本山獅子谷法然院 / 公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団 / 特定非営利活動法人MUKWANO / 一般社団法人 You-Do協会 / 立正佼成会一食平和基金 / 株式会社YKワールドビジョン

会津建物管理株式会社 / 愛東運輸株式会社 / 秋田曳船株式会社 / あたぼう鮎 / 有限会社アップライジング / 有限会社イソ・コーポレーション / 伊那食品工業株式会社 / 有限会社茨城ベルトサービス / 株式会社ウチヤマホールディングス / 株式会社EiEiOh / エグチホールディングス株式会社 / 株式会社FISソリューションズ / 税理士法人大石会計事務所 / 大塚実業株式会社 / 大森建設株式会社 / 岡崎電工株式会社 / 株式会社小原工業 / 株式会社オンスホールディングス / 株式会社Kagitani Corporation / 加藤貿易株式会社 / キョウリンク株式会社 / 株式会社GLOBAL FLAT / 株式会社Kurokawa / ケイ企画 / 一般社団法人経営実践研究会 / 株式会社ケンモク / 興亜商事株式会社 / 株式会社Co-Lab / コミュニティ時津 / 株式会社ジェイ教育システムズ / 株式会社シップ / 児童労働ネットワーク (CL-Net) / しなやか整体院 / 地雷ゼロ宮崎 / 株式会社新経営サービス / 株式会社シンワルブテック / 税理士江黒清史事務所 / セーバー技研株式会社 / 司法書士法人瀬川事務所 / 株式会社蒼江 / 特定非営利活動法人相続・不動産サポートセンター / 株式会社TAISEI / 滝建設株式会社 / 「地球愛祭り2025in京都」実行委員会 / 地球愛祭り愛知実行委員会 / 地球愛祭り静岡実行委員会 / 地球愛祭り東京実行委員会 / 合同会社チョコリコ / 株式会社塚腰運送 / TUKAYAクリエイティブ株式会社 / つばさホールディングス株式会社 / テレコムクレジット株式会社 / 天理教旭園分教会 / 友岡冷機株式会社 / ドラゴンキューブ株式会社 / 株式会社Dreams / 株式会社南海 / 株式会社西井製作所 / 日本生命保険相互会社 秋田支社 / 株式会社ノア動物病院 / 橋本ポンプ株式会社 / 株式会社ハヤシテクノ / 株式会社バリューブックス / 株式会社VIAJERO / ヒーローズサポート株式会社 / 医療法人平和の森 / 株式会社みしまや / 株式会社三井酢店 / 三和パッキング工業株式会社 / YURIホールディングス株式会社 / 医療法人社団YDCゆりの木歯科医院 / LifeBank株式会社 / 株式会社ライフウィズ / 株式会社リアルM / 株式会社リードアクション / リタワークス株式会社 / 宗教法人立正佼成会 上尾教会 / 弁護士法人ロウタス法律事務所

＼支援者の声／

「平和をつくる」ことに、少しでも力になればたら

私たちピエトロの未来ビジョンの一つに「子どもたちの未来を応援する会社」という目標があります。鬼丸さんの講演で、子ども兵のことを知ってショックを受けましたが、社内のSDGs推進室やプロジェクトのメンバーと、「平和をつくる」ことに少しでも力になればたら、という思いを共有し、ささやかながら応援を始めました。テラ・ルネッサンスの皆さんの願いと勇気と行動に心から敬意を表します。



株式会社ピエトロ
代表取締役社長

高橋 泰行 さん

＼支援者の声／

世界で困っておられる方の存在を心に留め、これからも支援を

日本に住んでいると、どうしても世界で困っておられる方のことを忘れてしまいがちです。しかし、継続して支援をさせて頂くことで、常にその存在を心に留めることができ、幸せに感じています。世界の問題を考えると自分に出来ることは本当にわずかではありますが、「微力ではあっても無力ではない」という思いを大切に、これからも支援を続けてまいります。弊社の使命である「日本と世界の架け橋になります」と同じ思いを持った団体様を支援できることも、心から幸せに思っております。



株式会社王宮
ブリッジホテルグループ
(旧道頓堀ホテルグループ)
専務取締役
橋本 明元 さん

主体的に動き、共に創る。広がる支援の輪

2025年度も、たくさんの方からのご支援が私たちの力になりました



寄付してくださった方

3,322人

毎月のご支援・今回の寄付・クラウドファンディング・イベント等でのご寄付を含む



めぐるプロジェクトの参加者数

233名



法人サポーター

281件

身近で支えてくれた仲間たち



**確かな実行力で企画を支える、頼もしいボランティア
テラ・スタイル東京**

イベント運営の現場を支えるだけでなく、自ら企画して報告会イベントを開催するなど、主体的な熱量で活動を牽引。長年培ったノウハウと実行力で、団体の魅力を社会へ広げる大きな原動力となっています。



**職員と同じ視点と多様な感性で挑む、
インターン**

学生から社会人まで、多様なバックグラウンドを持つメンバーが参加。職員と同じ目線に立ち、SNSやブログでの主体的な発信に加え、インターン独自の企画・運営にも挑戦。新しい視点で団体の魅力を社会へ届けています。

めぐるプロジェクト

「わたしにできることは何だろう？」という学生の想いから始まったプロジェクトです。不要になったモノを捨ててしまうのではなく、必要としている誰かへ届ける。そのシンプルなアクションが、世界各地で平和を育む確かな力へと変わります。



古本

書き損じはがき

使用済み携帯電話

アルミホイル

古紙

モノドネ

モノドネはモノで寄付ができる仕組みです

「使わないので、お金にかえて役立てて」事務局に届いた古い携帯電話やスマホ、本、書き損じはがきなど。



詳しくは、テラ・ルネッサンスのホームページをご覧ください。



寄付で応援

寄付は、世界の課題を深く知り、関わるチャンスです。



継続して寄付

個人の方	マンスリーサポーター（月々1,000円から） 利用方法：クレジットカード、口座振替
法人の方	法人サポーター（月々5,000円から） 利用方法：クレジットカード、口座振替



個人の方、団体・法人の方、それぞれ継続的にご支援いただける会員制度をご用意しています。特典として、会報誌や年次報告書、海外事業地からのポストカードなどをお届けします。月々の金額は途中での変更も可能です。



今回のみ寄付

●一般寄付

利用方法：クレジットカード、郵便・銀行振込
ちょっと良いことがあった日やお誕生日に。
ニュースを見て気になったときに。
少額からでも大きな力となります。

●ポイント募金

YAHOO募金ではポイントでのご支援が可能です。
ハーティン様が運営するクリック募金では、1日1回
クリックするだけで、1円が元子ども兵支援活動のために寄付されます。

ご寄付は税制優遇の対象となります。領収書は翌年1月にまとめて発行いたします。

【寄付に関する注意事項】

- 控除上限： 寄付金控除の限度額詳細は、最寄りの税務署または総務省ポータルサイトをご覧ください。
- 佐賀県在住の方： 県の制度上、佐賀県民の皆さまからの「ふるさと納税」によるご寄付には返礼品をお届けできません。
- 法人の皆さま： 法人でのふるさと納税で返礼品を受け取る受贈益が発生する場合があります。「企業版ふるさと納税」のご活用を含め、事前に事務局へご相談ください。

※ ふるさと納税の郵便振込用紙をご希望の方は事務局までご連絡ください。

ありがとう！皆さまから届いた「応援の声」

●「素晴らしい活動を知ることができたことに感謝です。微力だけど無力じゃないという言葉に、少しでも支援できればと思いました。（沖縄）」

●「リターニーズ」の映画を観ました。互いに許し合う、責めない、対立しない精神、さらに広範囲に渡るご活動に感謝感服しています。（兵庫）

ふるさと納税で寄付

税控除のメリットや佐賀の魅力的な特産品（返礼品）を受け取りながら、日本国内の若者育成とアジア・アフリカで紛争や災害の被害を受けた人々の自立を支援することができます。



遺贈・相続財産寄付で支援

遺言による寄付、相続財産による寄付、お香典からの寄付が可能です。遺贈・相続財産などのご寄付は相続税の課税対象から除かれます。また、ご寄付は税控除の対象となります。



詳しくは、テラ・ルネッサンスのホームページをご覧ください

ご支援のお申込み・お問い合わせ

電話

075-741-8786（月-金10:30-18:00）

FAX

075-741-7965

メール

contact@terra-r.jp

Web

https://www.terra-r.jp/



2025年度決算ならびに2026年度予算

(単位：円)

Ⅰ. 経常収益の部			2025年度 予算	2025年度 決算	2026年度 予算
1. 受取会費			69,356,000	61,058,000	84,972,000
2. 受取寄付金			271,834,084	194,707,695	364,888,642
3. 受取助成金等			48,956,446	67,439,305	46,188,034
4. 事業収益			45,685,000	42,029,337	58,855,907
5. その他			0	9,560,923	
経常収益合計			435,831,530	374,795,260	554,904,583
Ⅱ. 経常費用の部					
1. 事業部門	海外事業部	カンボジア事業 ラオス事業 ウガンダ事業 コンゴ事業 ブルンジ事業 ウクライナ事業	35,190,357 30,950,327 71,421,802 65,536,112 13,719,267 31,334,715	37,100,608 32,688,456 76,060,118 59,419,977 19,218,843 82,668,631	16,379,120 29,653,681 73,480,963 72,620,880 14,029,988 16,379,428
	国際運動推進部	グローバル人財育成事業 台湾事業 グローバル・アドボカシー/ファンドレイジング 事業 タイ事業	19,942,214 14,002,262 6,641,724 11,487,792	19,174,926 8,612,787 4,814,235 19,009,613	29,176,657 16,034,058 8,402,156 17,023,557
	大槌刺し子事業部 啓発事業部 広報室		11,999,742 71,261,077	14,521,785 57,441,636	17,535,274 78,059,273 15,932,172
	その他の事業		0	169,030	
2. 管理部門			42,160,477	37,307,599	44,294,878
経常費用合計			425,647,868	468,208,244	449,002,085
当期経常増減額			10,183,662	(93,412,984)	105,902,498

国際協力事業費明細

(単位：円)

カンボジア	地雷埋設地域村落開発支援フォローアップ	6,597,530
	地雷埋設地域の農業協同組合運営強化支援事業	21,788,893
	地雷埋設地域スラエ・スダウ小学校追加支援事業	493,701
	農村社会変革リーダー育成事業	8,220,484
合計		37,100,608
ラオス	子ども向け不発弾回避教育の持続的実施体制の構築と脆弱層への生活基盤強化プロジェクト	27,904,304
	シエンクワン県の不発弾汚染地域における生計向上および環境保全支援	3,204,324
	シエンクワン県ベック郡における子どもの学習環境改善プロジェクト	1,579,828
	合計	
タイ	タイ国内における脆弱層支援	1,574,958
	ミャンマー中部大地震に対する緊急支援	2,825,878
	合計	
ウガンダ	ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト	41,978,957
	ウガンダ北部における最も脆弱な若年層レジリエンス向上プロジェクト	1,318,322
	ウガンダ北部における元子ども兵の「ペイフォワード」支援事業	4,241,043
	カラモジャ地域における生計向上と食料生産力強化によるレジリエンス向上プロジェクト	28,521,796
	合計	
コンゴ	南キブ州における脆弱層レジリエンス向上プロジェクト	26,698,655
	中央カサイ州における紛争の影響を受けた最脆弱層に対するレジリエンス向上プロジェクト	5,106,318
	神の抵抗軍(LRA)の動員解除及び社会復帰支援プログラム	25,827,517
	カタンガ州における子ども・若者に対する収入向上支援プロジェクト	1,787,487
	合計	
ブルンジ	ブリケット生産を通じた社会的弱者の生計向上と複合的リスクへの意識向上によるレジリエンス向上強化プロジェクト	12,227,671
	ブルンジにおけるコンゴ難民児童の教育・生活環境改善を通じた心のよりどころプロジェクトフォローアップ	1,370,305
	社会的弱者世帯の子どもの保護と自立支援プロジェクトフォローアップ	1,674,062
	ブルンジにおける洪水被害者への緊急支援	3,946,805
	合計	
ウクライナ	ウクライナ避難民およびホストコミュニティの生活再建プロジェクト	855,183
	ウクライナ難民の生活支援プロジェクト	12,914,619
	ウクライナ戦争被害者を対象とした生活再建・福祉向上支援を目的とした総合福祉センターの建設プロジェクト	68,898,829
	合計	

2025年度助成金内訳

(単位：円)

助成機関 ※順不同	受取助成金	前受金	対象事業
1. 公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団	1,000,000		ミャンマー事業
2. 公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団	500,000		ウガンダ事業
3. 公益財団法人金子財団	1,000,000		グローバル人財育成事業
4. 特定非営利活動法人MUKWANO	4,000,000		ウガンダ事業
5. 宗教法人真如苑	1,000,000		ウガンダ事業
6. 宗教法人真如苑	1,000,000		コンゴ事業
7. 公益信託アフリカ支援基金	1,500,000		ウガンダ事業
8. 外務省 日本NGO連携無償資金協力	29,454,879		ウクライナ事業
9. 特定非営利活動法人MUKWANO		6,000,000	ウガンダ事業
10. 公益財団法人 森村豊明会		3,000,000	グローバル人財育成事業
11. 外務省 国際協力局民間援助連携室	14,228,821	20,778,711	ラオス事業
12. 公益社団法人青年海外協力協会	1,652,135		啓発事業
13. 立正佼成会一食平和基金	3,000,000		コンゴ事業
14. 国際移住機関 (IOM)	3,712,874		ブルンジ事業
15. 公益財団法人味の素ファンデーション	2,999,580		ウガンダ事業
16. 教育部青年發展署	2,193,543		台湾事業

〔上記に伴う各案件名〕(1)ミャンマー中部大震災に対する緊急支援(2)カラモジャ地域における生計向上と食料生産力強化によるレジリエンス向上プロジェクト(3)佐賀県実践的グローバル財成事業等—SDGsを推進し、世界の未来を担うグローバル人材の育成—(4)カラモジャ地域における生計向上と食料生産力強化によるレジリエンス向上プロジェクト(5)アフリカ中東部における元子ども兵の動員解除及び帰還、社会復帰支援プログラム(6)アフリカ中東部における元子ども兵の動員解除及び帰還、社会復帰支援プログラム(7)ウガンダ共和国カラモジャ地域における営農、養蜂を通じた食料生産力強化に対する支援(8)ウクライナ戦争被害者らを対象とした生活支援、福祉向上支援を目的とした総合福祉センターの建設プロジェクト(9)カラモジャ地域における生計向上と食料生産力強化によるレジリエンス向上プロジェクト(10)佐賀県実践的グローバル財成事業等—SDGsを推進し、世界の未来を担うグローバル人材の育成—(11)子ども向け不発弾回避教育の持続的実施体制の構築と脆弱層への生活基盤強化プロジェクト(12)NGOインターン事業(13)中央カササイ州における紛争の影響を受けた最脆弱層に対するレジリエンス向上プロジェクト(14)油養、石炭、洋裁、診療所、市場、バイクアップル、農作物加工(14)ブルンジにおける洪水被害者への緊急支援(15)カラモジャ地域における持続可能な営農、養蜂を通じた生計向上と栄養改善プロジェクト(16)行動中の平和

独立行政法人 国際協力機構からの業務委託事業

(単位：円)

事業名称	事業収益	前受金	対象事業
1. 草の根技術協力事業／カンボジア地雷埋設地域の農業協同組合運営強化支援事業	12,114,000		カンボジア事業

貸借対照表 (2026年3月31日 現在)

(単位：円)

Ⅰ. 資産の部			Ⅱ. 負債の部		
1. 流動資産	現金預金	68,426,963	1. 流動負債	未払金	10,338,745
	売掛金	7,044,464		前受金	37,868,711
	未収金	8,454,987		預り金	2,355,769
	商品	2,217,773		未払法人税等	223,000
	前渡金	350,000		未払消費税等	786,200
	前払費用	396,422	流動負債合計	51,572,425	
	立替金	728,791	2. 固定負債	長期借入金	63,493,000
	マイクロクレジット	3,181,977		固定負債合計	63,493,000
流動資産合計	90,801,377	負債合計	115,065,425		
2. 固定資産	有形固定資産	20,169,335	Ⅲ. 正味財産の部		
	投資その他の資産	570,635	1. 指定正味財産	前期繰越指定正味財産	44,265,345
固定資産合計	20,739,970	当期指定正味財産増減額		△27,009,845	
資産合計	111,541,347	2. 一般正味財産	前期繰越一般正味財産	71,466,037	
			当期一般正味財産増減額	△92,245,615	
		正味財産合計	-3,524,078		
		負債及び正味財産合計	111,541,347		

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス 理事長 吉田真衣 殿 2026年5月29日 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス 監事 伊藤圭太 監事 河浪潤

私は、2025年4月1日から2026年3月31日までの2025年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

1、監査の方法概要

(1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手法を用いて計算書類の正確性を検討した。

(2) 業務監査について、理事から業務の報告を徴収し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2、監査意見

(1) 活動計算書、貸借対照表及び財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく表示していると認める。

(2) 業務報告書の内容は真実であることを認める。

(3) 理事の業務執行に関する不正の行為、又は法令もしくは定款に違反する重大な事項はないと認める。

以上

私たちがご相談の窓口です



事務局本部メンバー（右から）
寄付管理担当 上野知子：テラルネ歴12年
財務・経理シニアマネージャー ジャコブ萌：テラルネ歴5年（うちインターン2年）
寄付管理・総務担当 高木瑞希：テラルネ歴5年（うちインターン2年）

事務局本部は、皆さまからのお問い合わせを直接お受けする窓口も担当しています。

日頃のご支援の中で、

「住所や会費の支払い方法を変更したい」

「領収書について聞きたい」

といったお手続きや、寄付に関するちょっとしたお困りごととはございませんか？

バックオフィス業務は、現場から物理的な距離はありますが、想いの距離は一番近くにありたい。そう願いながら、皆さまから届くご寄付や情報を大切に扱い、支援現場へと繋いでいます。

皆さまから託された大切なご寄付を、1円でも多く、1秒でも早く現場へ届けるための「平和の土壌」を耕すこと。それが私たちの誇りです。

皆さまが安心して平和への想いを託せるよう、丁寧なコミュニケーションを心がけてまいります。何かございましたら、どうぞお気軽に事務局本部までご相談ください。

事務局本部一同

テラ・ルネッサンス 団体概要

(2026年3月末日)

正式名称	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス	理事長	吉田 真衣		
設立年	2001年（2005年 法人格取得、2014年認定NPO法人となる）				
活動対象国	カンボジア王国 / ラオス人民民主共和国 / ウガンダ共和国 / コンゴ民主共和国 / ブルンジ共和国 ハンガリー / ウクライナ / 中華民国 / タイ王国 / 日本国				
海外・国内事務所	●本部事務局（日本 京都府）、佐賀事務所（日本 佐賀県）、大槌事務所（日本 岩手県） ●カンボジア事務所（カンボジア王国バットアンバン州） - フィールド事務所（バットアンバン州サムロート郡） ●ラオス事務所（ラオス人民民主共和国シェンクワン県） ●ウガンダ事務所（ウガンダ共和国グル県） - フィールド事務所（ウガンダ共和国 コティド県） ●コンゴ事務所（コンゴ民主共和国南キブ州） - フィールド事務所（南キブ州カレヘ行政区カロンゲ区域、中央カサイ州カナンガ市） ●ブルンジ事務所（ブルンジ共和国ブジュンブラ市） - フィールド事務所（カヤンザ県カヤンザ郡） ●ハンガリー事務所（ハンガリー ブダペスト市） ●台湾事務所（台湾 台中市） ●タイ事務所（タイ王国 バンコク都）				
海外における 主な協力団体	【台湾】Taiwan Alliance in International Development(Taiwan aid) / The Mustard Seed Mission(MSM) 【カンボジア】Mines Advisory Group (MAG) / The Department of Agriculture, Forestry, and Fisheries in Battambang Province / Community Rural Development and Natural Agriculture for Supporting Environment(CRDNASE / Khmer Foundation / Setakech Baytong Samlout Agriculture Cooperative 【ラオス】National Regulatory Authority for the UXO/Mine Action Sector in Lao PDR, The Ministry of Foreign Affairs / Xiangkhouang Provincial Department of Foreign Affairs / Xiangkhouang Provincial Department of Labour and Social Welfare / Xiangkhouang Province Governor Office / Pek and Phaxay District Governor Offices / Pek and Phaxay Districts Agriculture and Forestry Offices / Pek and Phaxay Education and Sports Offices 【ウガンダ】Office of Prime Ministry / Gulu District / Ajumani District / Kotido District / World Vision Uganda / Refugee Law Project / The Center for Victims of Torture / Gulu NGO Forum 【ブルンジ】Kiganda Commune / Muramvya Province / Kayanza Commune / Kayanza Province / Ministry of National Solidarity, Social Affairs, Human Rights and Gender / International Organization for Migration 【コンゴ】South Kivu Province / Central Kasai Province / UNDP / UNOCHA 【ハンガリー・ウクライナ】Greek Catholic Church, Eparchy of Mukachevo / St.Panteleimon Greek Catholic Caritas, Carpathia / Záhony City Hall / Hungaricum Guest House Máriapócs 【タイ】Roong Aroon International School				
役員	理事 吉田 真衣（理事長） / 江角 泰 / 鬼丸 昌也 / 小川 真吾 / 中井 隆栄 / 岡田 則子 / 渡邊 真規 監事 伊藤 圭太 / 河浪 潤				
スタッフ	●本部事務局（京都） ●岩手事務所 ●佐賀事務所 ●ウガンダ／グル事務所 ●ウガンダ／カラモジャ事務所 ●カンボジア事務所 ●ラオス事務所 ●コンゴ／フカブ事務所 ●コンゴ／カナンガ事務所 ●ブルンジ事務所 ●台湾事務所 ●ハンガリー事務所 ●タイ事務所			有給スタッフ 10名 インターン 7名 有給スタッフ 2名 有給スタッフ 4名 日本人有給スタッフ 1名 ローカルスタッフ 21名 日本人有給スタッフ 1名 ローカルスタッフ 15名 日本人有給スタッフ 2名 ローカルスタッフ 7名 日本人有給スタッフ 2名 ローカルスタッフ 9名 ローカルスタッフ 16名 ローカルスタッフ 2名 日本人有給スタッフ 1名 ローカルスタッフ 7名 日本人有給スタッフ 1名 ローカルスタッフ 1名 日本人有給スタッフ 1名 ローカルスタッフ 3名 日本人有給スタッフ 3名 ローカルスタッフ 1名	
会員数	ファンクラブ会員 1,624名 / 正会員 49名 / 個人賛助会員 91名 / ジュニア会員 5名 / 団体賛助会員 20団体 法人サポーター 281団体				
加盟団体	（特活）関西NGO協議会／（特活）国際協力NGOセンター／（特活）地雷廃絶日本キャンペーン／児童労働ネット ワーク／SDGs市民社会ネットワーク／国際小型武器行動ネットワーク（IANSA）／グルNGOフォーラム／関西SDGs プラットフォーム／佐賀NGOネットワーク／大槌商工会／（一社）大槌町観光交流協会／（特活）ACE／NGO・外 務省定期協議会連携推進委員会NGO側連携推進委員会／JICA-NGO協議会／（福）大阪ボランティア協会／（特活） RITA-congo／（特活）新公益連盟				

About the Photos

表紙写真：ウガンダ 「スマイルハウス」にて笑顔を見せる元少女兵

p1-2写真：ウガンダ カラモジャ地域の女性。村人によればこの木は毒性の野生のキャッサバ（食べられない）だが、2022年一帯を飢餓が襲った際には飢えに耐えかねた人々が口にし、複数の命を落とした

p3-4写真：ラオス 不発弾事故被害者のモン族の親子。少女は地中に埋まった銃弾の爆発事故で片目の視力を失った。テラ・ルネッサンスは2026年5月に義眼設置手術を支援した

 TerraRenaissance

 terra.ngo

 terra_ngo

 terra_ngo

国連 ECOSOC 特殊協議資格NGO

認定NPO法人テラ・ルネッサンス

〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角堺町21番地 jimukinoueda bldg. 403号室

TEL: 075-741-8786 FAX: 075-741-7965 E-mail: contact@terra-r.jp

HP: www.terra-r.jp



メルマガ登録はこちら



LINE登録はこちら



2026年8月発行